

# 美しい 県土づくりNEWS

知恵と工夫

2005年

Aug 8

岩手県県土整備部手づくり広報誌

美しい県土づくり NEWS 13号

平成 17年 8月 4日発行

編集 県土整備企画室

## CONTENTS

Page	
2	● 今月の人 津波は「てんでこ」 澤口建築住宅課総括課長
3	● 町村への権限移譲アンケート
6	● 自然と共生する新しい時代の公共事業
7	● カワシンジュ貝を移植
8	● 公共工事コスト縮減対策
10	● 中間支援 NPO との懇談会
13	● 県土整備 TOPICS
15	● インフォメーション
16	● 8月は道路ふれあい月間
17	● みんなの声

### 岩手の残したい景観 Vol.4

#### 毛越寺線から見る東稲山の景観

##### 【選ばれた理由】

平泉駅から毛越寺に通じる毛越寺線は整備が進み、景観に配慮され、観光客にも地域住民にとっても安らぎが感じられる通りとなった。特に、歩きながら東稲山を見通すことができるように配慮されているため、空間の広がりを感じられる点が素晴らしい。



「いわての残したい景観」は県土整備部都市計画課のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp0604/machi/nkeikan/nkdbtop.htm>



# 津波は「てんでこ」

建築住宅課総括課長 澤口 政登志



私の故郷の名前が平成 17 年 6 月 5 日をもって地図から消えてしまった。田老町は新しい宮古市の一部として宮古市田老になった。田老町で育った者としては淋しい限りであるが、宮古市の一部になっても「防災田老」の意識は持ち続けて欲しいと願っている。

私が小学生の頃は、田老町の 3 月 3 日は雛祭りではなく「津波の日」であった。全校児童が講堂に集まり、津波を経験した父母が津波の体験を話した。その後、全校児童で「津波の歌」を合唱した。本当の題名は判らないが、我々は「津波の歌」と言っていた。歌の出だしは、♪大津波 くぐりてめげぬ ころも持て・・・♪と記憶しているが、なにしろ 50 年近く前のことで正確ではない。その後、教室で授業をして、何時間目かに津波の避難訓練を行なった。全員が教室から出て、人数を確認した後に山に向かって歩き、安全なところまで行って訓練終了となった。

その時の父母の話で、津波が来たら「てんでこに逃げろ」ということが頭に残っている。「てんでこ」と言うのは、「てんでんばらばら」ということである。つきつめて言えば、自分の身を守ることを考えて、自分だけで逃げろということである。

昭和 8 年の津波は朝方だったため、着替えたり子供に着替えをさせたりしているうちに津波が来て一家全員が亡くなってしまった家もあると聞いた。また、逃げる途中で弟、妹がいないことに気付いて家に戻ったために兄弟全部が亡くなった例もあると聞いた。

津波のように地域全体が被害を受けるような災害では、着の身着のまま、いち早く逃げるのが重要で、着替えとか避難準備をしていて、準備の遅い子供とか老人のために一家全滅は避けなければという意識がこの言葉になったものと思われる。

自分がこの仕事をするようになって、防災意識の向上とか防災避難を考えるときに、「津波はてんでこ」という言葉を思い出している。一人一人が、日頃から災害に対応する心構えを持って、自己責任で危険を回避することが重要で、「防災は個人の意識の問題だよ」と教えられているような気がする。また、一刻も早い避難が重要であるとか、避難に当たってばらばらに逃げる事によるリスクの分散とか、危機管理とか含蓄のある言葉であるような気がする。

この話は、防災について教育を受けたこともなく、津波という大災害を経験した田老町の一町民が自らの経験で話したことである。防災に関する心構えを見事に言い表した言葉だと思っている。

8月  
主要行事

- |   |   |   |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 歴史の道シリーズ第9弾「先人たちの足跡をたどる」             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 期日 8月7日(日)</li> <li>● 時間 9時～14時</li> <li>● 場所 一戸町</li> <li>● 担当 二戸地方振興局土木部</li> </ul> </li> <li>● 自然と共生する新しい時代の公共事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 期日 8月9日(火)</li> <li>● 時間 14時～16時</li> <li>● 場所 エスポワールいわて</li> <li>● 担当 県土整備企画室</li> </ul> </li> <li>● 県道薄衣舞川線中谷起工区開通祝賀会             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 期日 8月9日(火)</li> <li>● 時間 18時～19時</li> <li>● 場所 舞川公民館</li> <li>● 担当 一関地方振興局土木部</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 景観法説明会             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 期日 8月10日(水)</li> <li>● 時間 13時～17時</li> <li>● 場所 エスポワールいわて</li> <li>● 担当 都市計画課</li> </ul> </li> <li>● 「ダム湖百選」認定碑除幕式             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 期日 8月10日(水)</li> <li>● 時間 11時～12時</li> <li>● 場所 御所湖広域公園手つなぎ広場</li> <li>● 担当 盛岡地方振興局土木部</li> </ul> </li> <li>● 第5回黄金ロードふれあい作戦             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 期日 8月10日(水)</li> <li>● 時間 9時～12時</li> <li>● 場所 管内</li> <li>● 担当 一関地方振興局土木部</li> </ul> </li> <li>● 仙人峠の集い             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 期日 8月10日(水)</li> <li>● 時間 9時～15時</li> <li>● 場所 仙人峠</li> <li>● 担当 釜石地方振興局土木部</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 道の日記念行事             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 期日 8月10日(水)</li> <li>● 時間 8時30分～15時</li> <li>● 場所 大船渡市日頃市町 鷹生ダム</li> <li>● 担当 大船渡地方振興局土木部</li> </ul> </li> <li>● 西和賀地域の自然環境セミナー             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 期日 8月11日(木)</li> <li>● 時間 10時～16時</li> <li>● 場所 現地調査箇所沢内バーデン</li> <li>● 担当 北上地方振興局土木部</li> </ul> </li> <li>● 歴史の道・白木峠散策会             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 期日 8月19日(金)</li> <li>● 時間 10時～14時</li> <li>● 場所 湯田町～秋田県山内村</li> <li>● 担当 北上地方振興局土木部</li> </ul> </li> <li>● 主要地方道花泉藤沢線涌津～老松地区開通式             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 期日 8月27日(土)</li> <li>● 時間 11時～12時</li> <li>● 場所 花泉町新老松橋</li> <li>● 担当 一関地方振興局土木部</li> </ul> </li> </ul> |
|---|---|---|



# 特集

## 国道及び県道の維持管理業務に係る 町村への権限移譲アンケート調査

県では、県道の改築や維持管理業務を14年度、15年度から市町村へ一括事務移譲を行っています。

この一括事務移譲の基本理念は、これからの行政は、基礎的自治体である市町村が、その自主性、自立性を発揮できるよう、市町村中心の行政システムに転換していく必要があるとの考えに基づくもので、県と市町村との間で、地方自治法の事務処理特例制度や職員派遣制度など、現行制度の中の手法を組み合わせ、事務・権限と財源と人をセットにした移譲を「岩手モデル」として試行することとしたものです。

平成14年度は、主に、県道の改築を大船渡市及び大東町に移譲し、道路の取り付けなど県との調整を要する事務を市町村が自ら決定しています。また、15年度には、県管理道路の維持管理業務を岩泉町及び田野畑村に移譲しています。このことにより、市町村の自立性を高め、また、県職員の派遣により技術の指導や移転が期待されています。

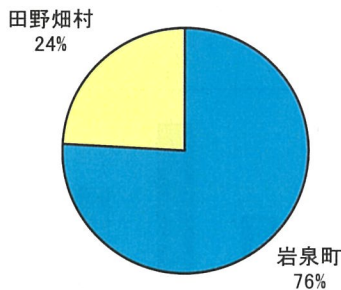
宮古地方振興局岩泉土木事務所では、岩泉町と田野畑村への権限移譲が2年経過したことから、今後の維持管理業務のあるべき姿の参考とするため、17年3月に岩泉町と田野畑村の世帯を対象に住民アンケートを実施し、その結果を以下のとおりまとめましたのでご紹介いたします。

なお、アンケート内容につきましては、岩泉土木事務所と岩泉町、田野畑村で構成する道路連絡協議会で検討したものです。

### 【アンケート結果の概要】

- 回収率は、65.3%（配布数 6,231 名、回答者数 4,067 名）
- 町村が国道・県道の道路維持管理を行っているが、「特に変わらない」という回答が半数を占める一方、「変わった」と感じる人が3人に1人いた。
- 変わった内容として「良くなった」とする回答が圧倒的に多いが、「悪くなった」とする比率が高い項目として「排水」、「除雪」、「融雪剤」関係である。

問1 お住まいはどちらですか？

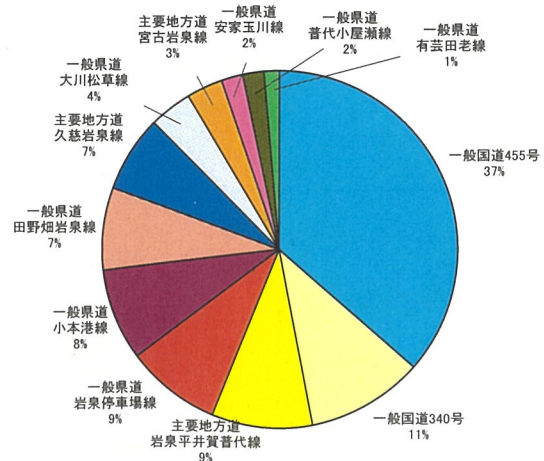


問2 主に日頃利用されている国道、県道は次のうちどちらですか？（複数回答可）

○主要幹線道路である一般国道455号の利用が37%を占め、その他は地元に近い路線が生活用道路として利用されていると思われます。

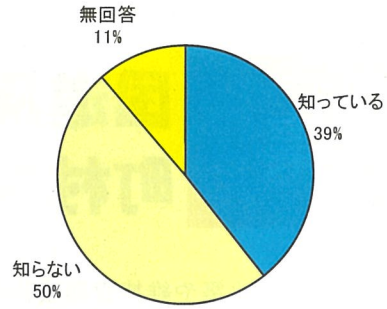
※回収率

	配布数	回収数	回収率
岩泉町	4,804	3,082	64.2%
田野畑村	1,427	985	69.0%
計	6,231	4,067	65.3%



問3 平成15年度より、県が行っていた国道及び県道の道路維持管理を、岩泉町ならびに田野畑村が、行っていることをご存知でしたか？

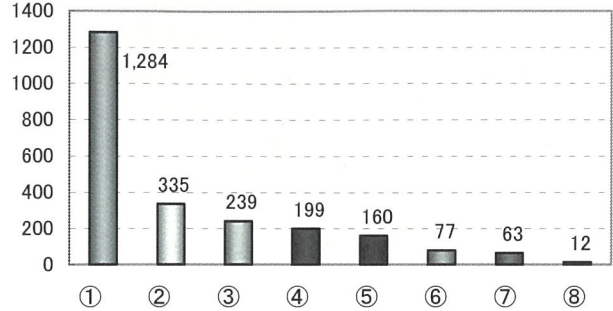
○『知らない』という回答がほぼ半数を占めました。『知っている』という回答も39%あり、認知度が高いことが判明しました。



問4 問3で知っていると回答した方は、どの様にしてお知りになりましたか？(複数回答可)

○『役場広報』という回答が大多数を占めています。

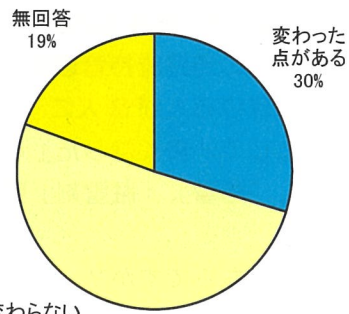
(世帯)



- ① 役場広報
- ② 近所の方から聞いて
- ③ 道路工事等の看板
- ④ 県の広報
- ⑤ 新聞
- ⑥ 役場、土木事務所へ電話したとき
- ⑦ その他(別紙)
- ⑧ インターネット

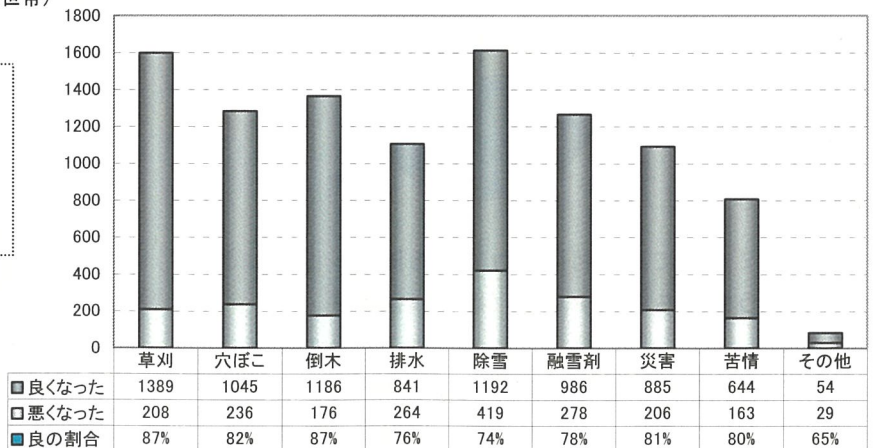
問5 岩泉町ならびに田野畑村が、平成15年度以降国道及び県道の道路維持管理を行っていることで、変わった点がありますか？

○『特に変わらない』という回答が過半数を占めています。



問6 問5で変わったと回答した方は、その内容をお答えください。(世帯)

○回答した世帯は全ての項目において『良くなった』が過半数を占めています。



- 草刈 ... 路肩の草刈
- 穴ぼこ ... 路面の穴ぼこやゴミ処理
- 倒木 ... 路面の倒木、落石処理
- 排水 ... 側溝等の排水不良の対応
- 除雪 ... 除雪対応
- 融雪剤 ... 融雪剤の散布
- 災害 ... 大雨や強風等の災害時の対応
- 苦情 ... 苦情への対応
- その他 ... その他



【良くなった点】

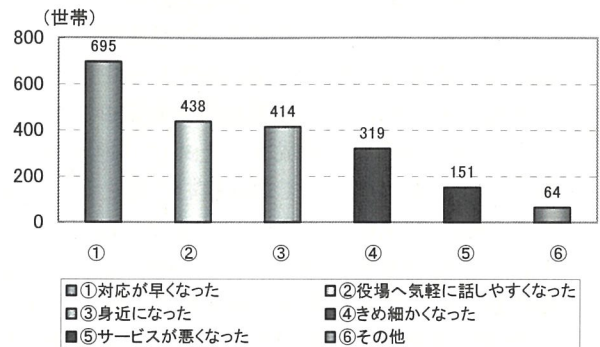
- 草刈等に関すること：道路脇の草刈、枝払いの対応が良くなった。
- 倒木、落石処理に関すること：法面の立木除去の対応が良くなった。
- 除雪に関すること：町と県の除雪対応が平準化されてきた。除雪会議を行ってくれるようになった。
- その他：きめ細かさが感じる。身近に感じる。対応が早くなった。

【悪くなった点】

- 穴ぼこやゴミ処理に関すること：わだちの補修対応。
- 除雪に関すること：融雪剤をまきすぎ。除雪する時刻が遅い。
- その他：よくパトロールをした方がよい。

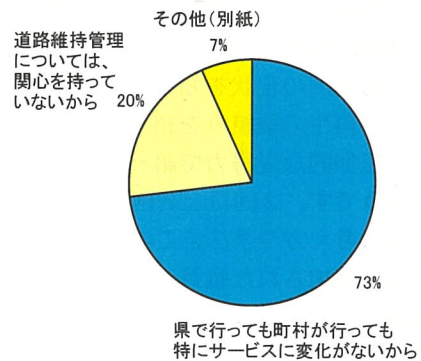
問7 問5で変わったと回答した方は、その理由は、次のうちどれですか？（複数回答可）

○回答した世帯は概ね良くなった項目を回答しています。

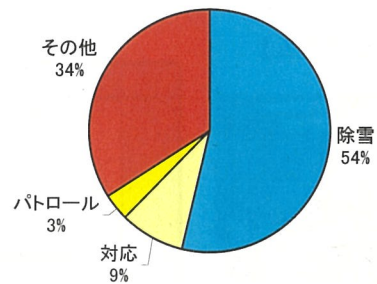


問8 問5で道路維持管理が、県から岩泉町ならびに田野畑村となったことにより、変わらないと回答した理由は次のうちどれですか？（複数回答可）

・『特にサービスに変化がない』という回答がほとんどを占めています。

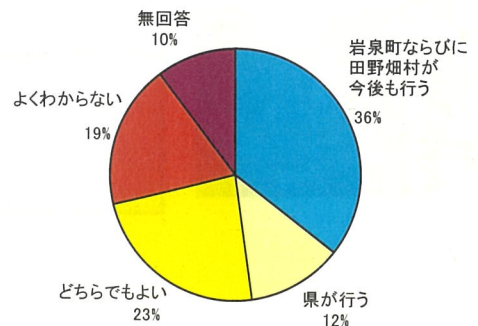


・その他の意見は除雪関係が過半数を占めています。



問9 今後の道路維持管理に関して、次のどちらの方法が良いと思われますか？

・『岩泉町ならびに田野畑村が今後も行う』という回答が36%を占め、最も多い結果となりました。なお、県または町村のどちらでもよいという回答も次いで多い結果となりました。





# 自然と共生する

## 新しい時代の公共事業について

### 概要

今日、自然と共生する社会の実現は重要な課題であり、衰退しつつある生態系を取り戻し、自然環境を保全するために、公共事業の実施にあたっては自然再生の積極的な取り組みが求められています。

このため、本県では環境基本計画を定め、「恵み豊かな環境と共生し未来につながるイーハトーブの大地」～みんな目指そう「環境首都いわて」～を基本目標に掲げ、様々な取り組みを行っています。

また、6月は、地球温暖化防止対策の二酸化炭素削減目標8%（これは国の6%を上回るものですが、この8%という目標）を達成するために「地域推進計画」を策定したところであり、この大きな目標に向け県民の皆さんとともに率先して取り組むこととしています。

この他、産廃税の導入やバイオマスなどのクリーンエネルギーの積極的な活用を行っているほか、公共事業では、河川や水路のコンクリート護岸の一部を緩傾斜の覆土護岸として、在来植物の植生回復を進めたり、水路を蛇行化して水辺環境の復元を行うなど、生態系に配慮した取り組みを進めてきたところです。

今回の研修会は、県や市町村の公共事業担当職員を対象に「自然と共生する新しい時代の公共事業」をテーマに、財団法人日本生態系協会の全面的な協力をいただき、3回のプログラムで実施しているものです。

第1回目の研修会では、協会の池谷会長から講義をいただき、公共事業によってその土地固有の生態系が失われている全国の現状を知らされるとともに、それと対比する形で欧米における地域固有の生態系に配慮したピオトープ再生の取り組みを紹介され、地球環境の視点から持続可能な社会を次の世代に引き継いでいくことの大切さを圧倒的な説得力で語っていただきました。受講された方の中には、かなりのショックを感じた方も多かったようです。2回目と3回目の研修会では、「新しい公共事業のあり方」として、自然と共生する公共事業の先進的な考え方や手法をご講義いただく予定です。

研修会に参加された職員は、公共事業に携わっている方々ですから“自然と共生する”ということが大変重要な要素であるということはある程度理解できますが、一方で、それだけに“難しさや困難さ”ということも日々感じています。今回の研修を通じて、生態系やピオトープなどに関する基礎的な知識を身につけ、自然と共生する公共事業の実践に活かしながら、環境首都にふさわしい美しい県土づくりを推進する大きな力にしていきたいと考えています。

### 【プログラム】



回	日程	テーマ	内容	講師
1	7月26日 (火)	美しく持続する地域をめざして ー自然と共生する新しい時代の公共事業ー	・日本における環境破壊の現状 ・ドイツ、アメリカの先進的な取り組み	(財)日本生態系協会 会長 池谷奉文
2	8月2日 (火)	新しい公共事業のあり方①	・エコロジカルネットワークの考え方 ・環境影響の定量的な評価手法(HEP)	(財)日本生態系協会 研究第2部長 高橋 衛
3	8月9日 (火)	新しい公共事業のあり方②	・河川、ダム、道路等、各事業における環境配慮の考え方 ・市民・NGOとのパートナーシップによる事業の推進	(財)日本生態系協会 理事 堂本泰章





# 北陵中学校の生徒が カワシンジュ貝を移植！

○カワシンジュ貝を移植しました！

今年度河川災害復旧工事を実施する木賊川の中流部において、工事実施箇所に生息が確認されたカワシンジュ貝を工事区間外に仮移植しました。移植作業には盛岡市立北陵中学校の生徒さんに協力いただき、時々小雨の降る中、約 200 個の貝を無事に仮移植しました。仮移植された貝は、災害復旧工事が完了した後、元の生息場所付近に戻す予定です。

## 1. 経緯

昨年 7 月 16 日から 20 日にかけての梅雨前線豪雨により河岸が決壊したことから、災害復旧工事を実施することになりました。計画区間には、カワシンジュ貝などの希少動植物の生息が確認されたことから、工事実施にあたっては、希少種の移植を行うなど、環境に配慮した工事を実施することとしたものです。

カワシンジュ貝の移植にあたっては、葛巻町で実施した土谷川の事例を参考にした他、福岡高校の竹内教諭のアドバイスを受けました。

工事実施延長 L=約 250 m (移植作業区域も同様)

## 2. 作業実施

作業実施について盛岡市立北陵中学校に話しを持ちかけたところ、総合学習で川の環境をテーマにするグループがあったことから総合学習の一環として実施することとしました。総合学習では、午前中に木賊川の洪水や水質などについて学習し、午後からカワシンジュ貝の移植作業を行いました。

## 3. 参加人数

盛岡市立北陵中学校 1 年生 11 名、  
盛岡地方振興局職員 7 名程

## 4. カワシンジュ貝のカテゴリー

岩手県のレッドデータカテゴリー C ランク  
環境省レッドデータカテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

## 5. 工事実施予定

災害復旧工事は、今年度秋から着工し、3 月末までの予定。



テレビ局も取材にきました



箱メガネを使って探しています



仮移植先への放流状況

### 【北陵中学校の生徒からのお手紙】

梅雨もあけず、肌寒い日々が続いていますが、お元気ですか。

先日は、お忙しい中、私たちにお話しくんだり、体験までさせていただきありがとうございました。

午前中に聞かせていただいたお話は、洪水被害の要因、木賊川の水質、洪水対策など始めて知ることも多く、ふだんは聞くことのできない貴重なお話を聞くことができました。

午後は実際に木賊川に入り、カワシンジュ貝の移植作業をお手伝いさせていただいた時は、きれいな川にしか生息しないカワシンジュ貝を実際に見て触ることができ、貴重な体験をさせていただきました。カワシンジュ貝がこれから先、木賊川にずっと生息できるよう盛岡の環境をよくしていきたいと思えます。

私たちが今回の活動で学んだ環境の大切さなどを多くの人に広めたいと思えます。

これから本格的に暑くなると思えますが、皆様もお体を大切に元気にお過ごしください。



# 縮減 対策

## 平成 16 年度岩手県における 公共工事コスト縮減対策の結果！

公共工事の実施にあたっては、良質の社会資本をより安く県民に提供するため、「公共工事コスト縮減対策岩手県新行動計画」(平成 13 年 10 月)に基づき、コスト縮減対策に取り組んでいます。平成 16 年度の公共工事コスト縮減対策の実績をとりまとめた結果、コスト縮減率は 9.8% (コスト縮減額：87 億円) となりました。

平成 17 年度は、より一層公共工事のコスト縮減対策に努め、目標であるコスト縮減率 10%の達成を目指します。

### 1. 「公共工事コスト縮減対策岩手県新行動計画」について

(1) 計画期間 平成 13 年度～平成 20 年度

(2) 縮減目標

平成 8 年度の標準的な工事コストと比較して、10%のコスト縮減率を達成します。

(目標年次：平成 17 年度)

(3) コスト縮減にあたっての基本的な視点

#### ①工事コストの低減

工事の計画や設計の見直し、技術基準の見直し、新技術の採用、積算の合理化など

#### ②工事の時間的コストの低減

集中投資による機能の早期発現、他事業との連携による機能の早期発現など

#### ③ライフサイクルコストの低減

施設の長寿命化、施設の省資源・省エネルギー化、クリーンエネルギーの活用など

※ライフサイクルコスト：構造物の計画、設計から建設、維持・管理、解体撤去、廃棄にいたる費用のこと。

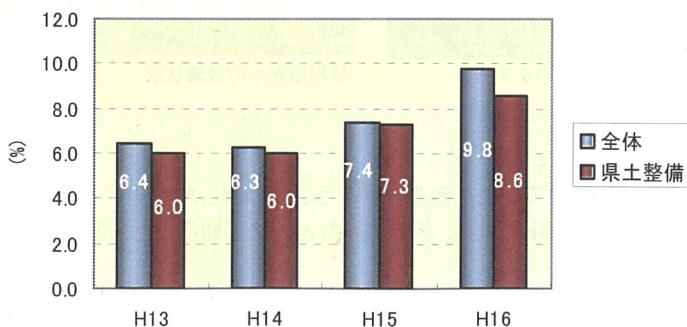
#### ④工事における社会的コストの低減

リサイクルの推進、工事による環境負荷の低減、工事中の安全対策など

#### ⑤工事の効率性向上による長期的コストの低減

工事に関する規制改革、工事情報・手続きの電子化など

### 2. 平成16年度のコスト縮減実績について



		農林水産部	県土整備部	計
H16	対象工事費 (億円) ①	247.5	548.8	796.3
	減少額 (億円) ②	35.3	51.4	86.7
	縮減率 (%) ②/(①+②)	12.5	8.6	9.8
H15	縮減率 (%)	7.6	7.3	7.4
H14	縮減率 (%)	6.8	6.0	6.3
H13	縮減率 (%)	7.0	6.0	6.4



## 平成16年度のコスト縮減対策の主な事例

### 1. 計画手法の見直し

- 周辺の他事業(ほ場整備と河川改修等)と連携して効率的に工事を進め、コストを縮減しました。
- 道路補修工事に併せて下水道工事を行い、安価な埋設工法の採用等により、コストを縮減しました。
- 既設の作業路を工事の仮設道路として利用し、コストを縮減しました。
- 側溝、ガードレール等の既存施設を有効に利用できるよう計画を見直し、コストを縮減しました。

### 2. 技術基準等の見直し

- パイプラインの埋設深さを浅くし、コストを縮減しました。
- 路盤構成、凍上防止工の見直しを行い、コストを縮減しました。
- 林道の技術基準を改正(カーブ拡幅量、ステップ幅の縮小)し、土工量等を減らし、コストを縮減しました。
- 消波ブロック等に用いる生コンクリートの規格を改定し、ブロックの製作費を縮減しました。
- ダム基礎地盤処理に関する技術基準の改定に併せ、処理方法等を見直し、コストを縮減しました。

### 3. 設計方法の見直し

- 農業農村整備において、岩手らしい整備手法・整備基準を定め、アスファルト舗装の摩耗層の廃止等のコスト縮減を行いました。
- 現場発生材(フリューム等)を積極的に活用できるように設計を見直し、コストを縮減しました。
- パイプラインを路肩部分に埋設し、舗装復旧費を縮減しました。
- 擁壁等のプレキャスト化を推進し、施工を省力化し、コストを縮減しました。
- 木製土留工等の木材利用工法を採用し、コストを縮減しました。
- 漁港の船揚場において、既設の滑り材の有効利用を図り、コストを縮減しました。
- 波力を低減する構造の防波堤(スリットケーソン)を採用して消波ブロックを不要とし、コストを縮減しました。
- 橋の設計において、上部構造の軽量化(合成床版の使用等)を図り、コストを縮減しました。

### 4. 技術開発

- 暗渠排水工に、疎水材の設置と管路の埋設を同時に行うドレンレイヤー工法を採用し、施工を省力化し、コストを縮減しました。
- 鋼製擁壁を採用し、施工を省力化し、コストを縮減しました。
- 歩車道境界ブロックと側溝蓋が一体となった製品を使用することにより、施工を省力化し、コストを縮減しました。

### 5. 建設副産物対策

- 再生アスファルトや再生砕石を使用して、材料費を縮減しました。
- 現場で発生した抜根材を粉砕し緑化材に活用することにより、材料費等のコストを縮減しました。
- 現場で発生した残土を近傍の工事へ有効利用し、運搬費等のコストを縮減しました。
- 撤去した防波堤コンクリートを漁場ブロックとして再利用し、ブロックの製作費等のコストを縮減しました。

### 6. ライフサイクルコストの低減

- 橋桁材に耐候性鋼材を使用し、ライフサイクルコストを低減しました。
- 橋の鋼材の塗装について、耐久性に優れた材料を使用し、ライフサイクルコストを低減しました。
- トンネル内の照明に長寿命のランプを使用し、ライフサイクルコストを低減しました。



# 県民参加 NPO等協働 通信

このコーナーでは、県民参加の活動事例や NPO 等との協働事例を紹介します。

## ～中間支援 NPO と県土整備部との 懇談会を開催！～

県土整備部では、平成 15 年 3 月に「県民参加のガイドライン」、平成 16 年 3 月に「県民参加の推進プログラム」を策定し、県土づくりの主役は県民であるとの基本的な考えの下に、県民一人ひとりの生活者の視点とそれぞれの地域の視点に立った施策を推進するほか、地域住民の主体的な参加や創意工夫を生かした地域づくりを進めています。昨年度は、県民参加の推進プログラムの「人材育成」、「地域ネットワーク形成の支援」及び「県民協働の実践」の推進を図るため、県内 4 地域において「地域懇談会」を開催したほか、『第 1 回県民参加・NPO 協働フォーラム』を開催しました。NPO と行政を取り巻く最新の情勢や県内の先進事例に取組む方々の思いや抱えている課題等の紹介が熱く紹介され、盛会のうちに終えたところであります。

今年度は、NPO の運営又は活動に関する連絡や助言・支援等の活動を行っている中間支援 NPO の皆様と一緒に、県土整備部が取組んできた協働事業の成果や課題などについて検証しながら、新たな協働事業の創出に向けた意見交換をするために懇談会を開催することといたしました。

懇談会の様子を一部ご紹介いたします。



### 【懇談会の内容】

高井  
NPO サポートルーム

(省略)

協働って、やればやるほど失敗するものなのですよね。自分たちの失敗は許されないという意識もありますが、協働は未知数の部分がある。NPO 側が仕事をいただいてもスキルや経験がまだまだ乏しい面があります。失敗することもあるということを認識してほしいですね。そういう意味では単年度主義ではなかなか成果が出せない面があります。これについては前向きな検証が必要かと思えます。こんないいものがでてきたよといっても、景観の場合はすぐに成果は出ませんよね。2年、3年かかるものもありますし、建設的に注視しながら「予算がつかない協働」をやっていたらと思います。

久木田  
NPO フォーラム 21

行政との協働も色々ありますが、その一つに意識が変わってほしい。形だけの協

### ■中間支援 NPO と県土整備部との懇談会

日 時：7 月 20 日 (水) 15 時 30 分～

場 所：岩手県公会堂 21 号会議室

出席者：県土整備部長、県土整備企画室長、技監、総括課長、中間支援 NPO

### ■懇談会に出席された NPO の皆さん

@リアス NPO サポートセンター	山崎専務理事
いわて NPO サポートルーム	高井室長
いわて NPO フォーラム 21	久木田代表理事
いわて NPO-NE T サポート	高橋代表理事
カシオペア連邦地域づくりサポーターズ	浪岡代表理事
NPO 花巻市民活動支援センター	甲山理事長
やませデザイン会議	長坂副議長
レスパイトハウスハンズ	小野会長



大矢  
まちづくり担当課長

高井  
NPO サポートルーム  
渡邊企画担当課長  
県土整備企画室

高井室長  
NPO サポートルーム  
高橋代表理事  
NPO-NET

高井室長  
NPO サポートルーム  
高橋代表理事  
NPO-NET

高井室長  
NPO サポートルーム

高橋代表理事  
NPO-NET

働や丸投げ協働については、意識が変わることは期待できません。一緒に汗を流す中で信頼ができます。課題も一緒に見えてきます。双方が汗をかくことが大事なんです。仕事も増えるから行政は大変でしょうけど・・・

私がいれなかったことは、自転車への思いを通じて知り合いになれたし、行政の枠を離れて世界が広がったと思います。使い勝手のよい人種といいますか、役に立つ人、所謂「役人」を再認識できてよかったです。

4月からの悩みは、自分のお金だという思いで仕事をする中で、有効に使えるようにしていきたいということです。なかなか形に残るものでないので、その成果・効果を伝えにくい面があります。100万円使った成果を示しなさいといわれても、示しにくいですね。そういった悩ましさがあります。

それでは、今後取組みたい事項について、今後の方向性を含め事務局からお願いします。

資料1の「今後の方向性及び具体的な推進事項」ですが、まず1つ目は地域懇談会と全県フォーラムを今年度もやりたいと思っています。地域懇談会については、ネットワークづくりということで、各地域でNPOの育ち方や取り組みにも差がありますので各地域で協働について考えて欲しいということで開催するものです。

2つ目は、本日開催の中間支援NPOとの懇談会の開催です。

3つ目は広報誌の発行ですが、ホームページにも掲載してありますので見てほしいと思います。県土整備部の取り組みを知っていただく機会が少ないので、引き続きやっていくことにしています。

4つ目が協働システムの検討についてですが、①は、事業の種類・規模別、そして段階ごとに協働の手法を整理しておかなければならないと考えています。②は、NPOの評価と役割ですが、随意契約や委託契約などの際、NPOの能力を評価するのは行政側が一方的に考えるのではなく、一緒に考えなければと思います。行政サイドの評価も必要ですね。③は、市町村とのかかわりについての問題意識です。基礎的自治体である市町村がこれからは中心ですし、地域づくりの主体である市町村への支援が必要だと思います。④の人材育成はNPOも県もファシリテーター能力が求められると思います。組織をまとめるリーダーとしての能力も含まれますが、ファシリテーターの養成が必要だと思います。⑤は、提案の仕方や窓口が必要と思っています。

質問はないですか。具体的な提案等があればお願いします。

人材の育成にもつながりますが、ファシリテーターに力をいれていかないとと思っています。養成講座を5年前から開催しています。今年は仙台宮城の加藤さんと呼んで開催しましたが、それでは人数が追いつかないので、各自治会におじゃまして養成のためのインストラクターを自分たちが中心となってやっています。北上地方振興局管内でやっているのを全県でできたらと思います。

もう一つは、県土整備部関連では、地域再生の視点ですが、人口減少社会の中で都市の形をどうするのか、コンパクトシティとも言われますが、ハード面から持続可能な社会をどう築いていくか、NPOも巻き込んで議論してはどうかと思います。

確認ですが、養成講座のお金は？

振興局からの委託でやっています。30人を要請する予定で、各地域に3人がお邪魔してファシリテーターをやっています。

人材育成の提案でしたが、できればお金のかからない協働で実績をつくっていったらと思います。これを県土整備部との協働で実施できないか。場所と人集めは県がやり、NPOが連携して講師の派遣を行う。県がどのくらい支援するかによって全体の規模は変わりますが・・・

今年インストラクションのマニュアルをつくる予定にしており、これなんかも使えると思います。

小野会長  
レスバイトハウス

橋本部長  
県土整備部長

久木田代表理事  
NPO フォーラム 21

清水室長  
県土整備企画室

谷地 敏 企画担当課長  
地域企画室

清水室長  
県土整備企画室長  
甲山理事長  
花巻市民活動

大矢  
まちづくり担当課長

高井室長  
NPO サポートルーム

谷地 敏 企画担当課長  
地域企画室

高井室長  
NPO サポートルーム

長坂副議長  
やませデザイン会議

高井室長  
NPO サポートルーム

県土整備部の事業が浸透していないのではないのでしょうか。せっかくいいことやっているのに浸透していないよという声があります。

確かに、連携がうまくいっていない部分もあると思いますが、話がちょっと変わるかもしれませんが、うちの部には団塊の世代と言われる職員が 150 人います。これらの職員は、今後 NPO の活動に参加する機会が多くなるのではと思っています。人によっては使い勝手のいい人もいますので、地域との接着剤になると思います。変化がでるのではと期待しています。

人材育成について呼び方が色々ありますが、いずれにしろ住民主導、NPO 主導のなかで、若い人が将来やってみたいという気持ちを起こさせるには社会的にも職能として認知されることが必要です。給料もきちんと払えないと育ちません。

そこで、ファシリテーターの認証制度みたいなのができないかと思っています。そうならば、専門学校にもコースができるし、何がしかのインセンティブを与えることができますと思います。

行政が NPO と協働を進める上で、今のような人材育成の話は県のメリットにもなるから、県として人材育成の面で予算手当てをすべきではないかと思っています。

県では、各部で色々な協働に取り組んでいますが、人材育成の話については、各部と協力して進めていく必要があると思っています。

地域振興部がのろしをあげれば、各部はついてくると思いますよ。

予算見積について、委託と補助は明確にすべきだと思います。

委託の場合は人件費が認められません。自主的な活動に補助するのではなく、県が委託する場合は、それなりの人材や管理コストが必要になります。行政と同レベルのサービス水準が求められる訳ですから、人件費が認められないとボランティアや高齢の人しかできなくなります。ぜひ、委託事業で人件費をみとめて欲しいです。補助事業については何々に補助するというをお互いに話し合っていないと NPO が育たないと思います。

何かしらのルールがないと、申請されたものをそのまま受けることになります。その点は課題だと思います。人件費の算出とかは、NPO によってまちまちで、県民の合意形成がとれるのか疑問です。NPO の評価にもつながるし、協働の仕組みにもつながる課題だと思います。

発注する方も、この見積が適切なのかというのが悩みの種かと思いますが、8 階の方では NPO の評価についてどう考えていますか？

現時点では考えていません。これからです。

NPO の自己評価について、客観的な基準をつくって業者のランク付けをやるのは現時点では難しいということです。NPO が自主基準を定めて、そういうのは宿題として抱えるべきと思いますが、いかがでしょうか？

市町村との連携について、地域振興部では市町村の NPO 担当者の研修会をやっていますが、県土整備部版の研修会をやってみたらと思います。振興局毎に市町村土木部職員を対象に協働の勉強会や事例研修会をやることで協働に対する格差を埋めていくのに有効だと思います。

NPO も努力しなければなりません。実績報告を受ける際、市町村との関係はどうだったかを書くようにするといいのではないのでしょうか。

人材育成については、アカデミーをつくりながらそこで学んでいく。地元を離れるわけにはいけないので、働きながらやる仕掛け作りが必要だと思います。

一昨年に第 1 回の県土整備部との懇談会をりましたが、今日の会議を通じて、NPO 側も大分成長したなと思いました。今後とも地域づくりのパートナーシップを大切にしていきたいと思います。本日はありがとうございました。





## 岩泉町ふるさと少年隊活動！

7月9日(土)

岩泉町では、NPOが主催となって「ふるさと少年隊活動」を行っています。これは、町内の小中学校生徒が自然体験や地域活動へ参加し、自己の可能性を追求する、というものです。

7月9日(土)には、標記活動を早坂トンネルにて行い、生徒が約100名、NPOスタッフが約20名という大人数で3,115m(=トンネル延長)を歩きました。工事施工業者4名、岩泉土木事務所職員も2名ほど参加しました。

ちょっと元気の良い子もいましたが、子供たちは皆楽しんでいったようでした。ちなみに出発前にはクイズ大会を開催し、最後まで残った生徒たちには景品を配りました。



## 視察が相次ぐいわて花巻空港！

7月14日(木)

梅雨まっただ中の季節ですが、いわて花巻空港を視察に訪れる方々が増えています。小さな見学者としては地元保育園の子どもたち。飛行機の大きさに目を丸くします。小学生はエプロンのはじに座り間近で見る飛行機を写生をしたり、中学生になると空港で働く人々に苦労していることなどをインタビューしたりしています。

他空港からの視察もあります。鳥根県の出雲空港管理事務所からは滑走路の補修工事について内容の詳細な調査で来港されました。現在、新規空港の整備が進められている静岡県からは空港及びターミナルの経営や滑走路舗装工事の調査で2班計約20人による視察がありました。視察が契機となって、いわて花巻空港の利用が伸びることを期待しています。



## 津付ダム建設に伴う損失補償協定調印式！

7月11日(月)

7月11日(月)に、住田町長を立会人として津付ダム地権者会と岩手県知事の間で「津付ダム建設に伴う損失補償協定調印式」を執り行い、無事協定書の調印を行うことが出来ました。平成12年度のダム事務所開設以来、ご尽力なされました皆様方に、厚く御礼申し上げます。

今後は、水没地権者の移転先地の確保等生活再建を進めていきます。



## ぎんがのもり夏祭りを開催！

7月18日(月)

花巻広域公園において7月15日(金)に安全点検パトロール、7月18日(月)にぎんがのもり夏まつり2005を開催しました。

安全点検パトロールは、夏休みと夏まつりのイベント前に、施設の点検と清掃を行い、来園者に安全で快適に利用していただくために開催したものです。

県職員やスポーツ振興事業団、その他参加者総勢38名が参加しましたが、今回の結果を今後の維持管理の参考にしていきます。

また、7月18日の夏まつりは、午後から天候が崩れたものの、たくさんのお客様に来園していただきました。特に天候の良かった午前中は、これまでのイベントの中でも一番のにぎわいでした。





**国道 284 号沢工区が全線4車線道路として  
供用！**

7月21日(木)

8年以上も狭隘で危険な状況にあった一般国道284号沢工区の全線(2180m)が4車線化され、快適な道路環境に生まれ変わりました。当該工区の一部(220m)は、用地交渉を継続するも地権者の方から理解が得られなかったため、収用裁決により事業用地を確保し、今年正月明けから鋭意整備を進めて参りました。今まで事業にご理解、ご協力いただきました皆様方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

8月初めには、薄衣舞川線中谷起工区(2000m)、盂蘭盆明けには花泉藤沢線老松工区(1005m)が全線供用の予定です。



**協働により砂防公園の草刈を行いました！**

7月24日(日)

7月24日(日)6時30分から滝沢村にある滝の沢砂防公園の草刈を地元住民、約200人が参加し行ないました。

平成13年度に公園が完成して以来、初めての本格的な草刈で、これまで、草が伸び放題であったため、あまり利用されていなかった公園ですが、今回の草刈を契機に住民の利活用に関する関心も高まり多くの人に利用されることと思います。

草刈終了後には、自治会長さんたちとの懇談会を行い、現在の公園の改善点などについて意見をいただきました。



**「結いのみちづくり事業」を開催！**

7月17日(日)

7月17日(日)に軽米町軽米地区で「結いのみちづくり事業」を開催しました。これは、二級河川雪谷川の管理用通路約L=800mを、地元住民と協働して、切削材を利用した舗装工事を実施するもの。

参加者は、地元有志の方々約60名と軽米町職員6名・県職員10名でした。当日は天気に恵まれ、暑い中の作業となりましたが、無事完成しました。

また、7月24日(日)には、第2回の事業を実施しました。



**ぎんがのもりたんけんたいを開催！**

7月23日(土)

7月23日(土)18:00から20:00まで、花巻広域公園にて「ぎんがのもりたんけんたい」を開催しました。26名の参加者とともに、夜の花巻広域公園を歩きながら自然体験ゲームをし、暗くなるのを待ってハス池にてホタルの観察を行いました。

昨年のイベントで、ホタルの生息を確認したため、今年はホタルの生態についての講義も行われました。一匹捕まえて調べたところ、ヘイケボタルでした。かなりの数のホタルを見ることができ、子供たちもかなり喜んでいました。

参加者からは、ぜひ来年も開催して欲しいとの要望がありました。



# Information

募集等  
のお知らせ  
1

## ●第28回東北地方道路写真コンテスト!

第28回目東北地方道路写真コンテストの表彰式が、「平成17年8月10日(水)(道の日)」に仙台市勾当台公園にて開催される「道路フェア2005」において行われます。

また、9月2日(金)～4日(日)にイオン盛岡ショッピングセンター2F「イオンホール」にて、佳作以上の全作品(276作品)の展示を行います。

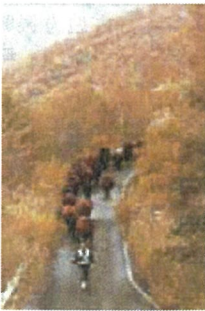
### 【本県の入賞作品】



【一般の部  
特別優秀作品賞】  
「シルエット」  
高橋貞勝さんの作品



【一般の部  
優秀作品賞】  
「幻想の朝」



一般の部  
優秀作品賞  
「帰り道」



一般の部  
優秀作品賞  
「虹の広場」

募集等  
のお知らせ  
2

## ●住宅リフォームの相談窓口

住宅の質の向上のためには、良質な住宅の新築に加え、住宅のリフォームがとても重要です。

岩手県では、これからリフォームを行おうとしている方のために、リフォーム業者の選定方法や、書面による工事契約の重要性などの情報を提供する窓口を設置しています。

### 住宅リフォームの相談窓口

窓口名称	電話番号
岩手県 県土整備部 建築住宅課	019-629-5932
盛岡地方振興局 土木部 住宅課	019-629-6650
花巻地方振興局 土木部 建築指導課	0198-22-4971
北上地方振興局 土木部 建築指導課	0197-65-2738
水沢地方振興局 土木部 建築指導課	0197-22-2881
一関地方振興局 土木部 建築指導課	0191-26-1418
千厩地方振興局 土木部 建築指導課	0191-52-4971
大船渡地方振興局 土木部 建築指導課	0192-27-9919
釜石地方振興局 土木部 建築指導課	0193-25-2708
遠野地方振興局 土木部 建築指導課	0198-62-9938
宮古地方振興局 土木部 建築指導課	0193-64-2221
岩泉土木事務所 建築指導課	0194-22-3116
久慈地方振興局 土木部 建築指導課	0194-53-4990
三戸地方振興局 土木部 建築指導課	0195-23-9209
けんみん住宅プラザ	019-652-7744
けんみん住宅プラザ・みずさわ	0197-22-3835
(財)岩手県建築住宅センター	019-623-4414

# 8月は道路ふれあい月間

毎年8月1日から31日までの1ヶ月間は、「道路ふれあい月間」として、道路とふれあい、道路の機能、大切さを再認識して頂き、さらには道路をいづくしむという意識をもっていただくことを目的に様々な催しが行われます。今年は、「道路ふれあい月間」の行事として次のとおり各種行事を予定しております。詳しくは、関係機関に直接お問い合わせ願います。



昨年度の「九戸政実ゆかりの地を訪ねる」(二戸)の様子

(平成17年7月末現在)

月日	事業名	事業内容	人数	関係機関
8月2日(火)	北山トンネル探検隊	盛岡市立高松小学校5・6年生の児童等の参加で、北山トンネルの見学会を実施する。	80名	盛岡地方振興局土木部 TEL019-629-6644
8月4日(木)	管内道路のゴミ拾い	管内の管理している国・県道のゴミ拾い。	20名	花巻地方振興局土木部 TEL0198-22-4971
8月26日(金)	歴史の道・白木峠散策会	南部藩と佐竹藩の往来道にあった白木峠を散策し、道の意義を再認識するとともに道の大切さを学ぶ。	100名	北上地方振興局土木部 TEL0197-65-2738
8月1日(月)	管内道路等のゴミ拾い	管内にある待避所やチェーン着脱所の環境美化運動(ゴミ拾い)。	40名	水沢地方振興局土木部 TEL0197-22-2881
8月10日(水)	第5回黄金ロードふれあい作戦	県、市町、建設業協会一関支部と共同で道路清掃活動(空き缶、ゴミ拾い)を行なう。	120名	一関地方振興局土木部 TEL0191-26-1418
8月10日(水)	「道の日」広報活動	「道の駅かわさき」を主会場として、道の駅かわさき周辺及び一般国道284号沿いで道路愛護の啓蒙活動として、パンフレット等による広報活動、花の苗等の配布、沿道の清掃活動を実施する。	100名	千厩地方振興局土木部 TEL0191-52-4971
8月10日(水)	「道の日」記念行事	歴史街道 日頃市・南部塩街道の約9kmを散策する。	250名	大船渡地方振興局土木部 TEL0192-27-9919
8月10日(水)	第18回旧釜石街道・仙人峠の集い	旧釜石街道を、仙人トンネル遠野側坑口から陸中大橋駅まで歩く。	250名	遠野地方振興局土木部 TEL0198-62-9938
8月10日(水)	第18回旧釜石街道・仙人峠の集い	旧釜石街道を、仙人トンネル遠野側坑口から陸中大橋駅まで歩く。	250名	釜石地方振興局土木部 TEL0193-25-2708
8月10日(水)	道の日 in 宮古	クリーン作戦(道路清掃)及び街頭パレードを実施する。	300名	宮古地方振興局土木部 TEL0193-64-2221
8月9日(火)	管内道路のゴミ拾い	観光地である龍泉洞付近の道路美化運動(ゴミ拾い等)。	20名	岩泉土木事務所 TEL0194-22-3116
8月10日(水)	管内道路のゴミ拾い	国道の清掃美化活動	100名	久慈地方振興局土木部 TEL0194-53-4990
8月7日(日)	歴史の道シリーズ第9弾 「先人たちの足跡をたどる」	「歴史の道・旧奥州街道浪打峠」一戸町小井田橋～浪打峠～もみじ交遊舎までの4.5kmを散策する。	150名	二戸地方振興局土木部 TEL0195-23-9209



# みんなの声

1 opinion/idea/proposal/recommendation

## 県の発注工事について

県としては適切な価格で発注していると思うが、元請が下請けに出す価格は原価割れの発注が多い。県として指導してほしい。

2005/5/18/電子メール

県営建設工事において、元請業者が下請契約を締結した場合には、元請、下請関係の適正化を図るため、県営建設工事請負契約書附属条件により、下請契約書の写しを添付した下請調書を発注者に対して提出することを義務付けています。

あわせて、県営建設工事において、下請契約の総額が3千万円以上となる場合においては、元請業者は、下請契約書の写しを添付した施工体制台帳を工事現場ごとに備え置くとともに、下請業者の施工分担関係を表示した施工体系図を作成し、工事現場の公衆の見やすい場所に掲示することが義務付けられています。

県においては、このように、工事施工を通じて元請、下請業者間の適正化に努めています。

3 opinion/idea/proposal/recommendation

現在事業実施中の河川激甚災害対策特別緊急事業砂鉄川において、狛鼻溪下流にある松川堰の改築を行う計画のようだが、その際に、1mでもいいので町有地を通らないで船着場へいけるスロープを創設してほしい。(現況は、町有地を通らないと船着場へ行くことが出来ない)。

2005/5/31/来訪

狛鼻溪には、現在も利用されている通路(町有地)があり、町では一般の方の通行を制限していないと聞いています。

既設の通路が自由に通行が可能であるとすれば、新たにスロープを創設する必要がないと考えますので、ご理解とご協力をお願いします。

2 opinion/idea/proposal/recommendation

子供の遊べる公園がない。また公園があったとしても遊具が少なく魅力がない。整備してほしい。

2005/5/16/ファクシミリ

岩手県内には、県、市町村が管理する都市公園が平成15年度末で1,048箇所あります。このうち、住宅地に近接した都市公園は、地区公園や街区公園などと呼ばれるものであり、市町村が管理しています。御提言の内容については、管理者である盛岡市にお伝えします。その他の市町村に対しても、会議等の機会を通じて伝えていきます。

なお、県が管理する遊具等を備えた県立広域公園としては、御所湖広域公園や花巻広域公園がありますので、お休みの日などにご利用いただければ幸いです。

4 opinion/idea/proposal/recommendation

## 県営住宅の入居手続きについて

1 申込書に家の間取り、地図を記載し、家賃の契約書(写)や子どもの学生証(写)、立ち退きの要求書を添付し、さらに特殊な事情など詳しく記入しなければならないのは何故か。

2 くじ引きのために家庭の事情など個人情報を入力しなければならないのは何故か。

3 申込書に記入する家の間取りや個人的な特殊事情が、くじ引きと関係があるのか。

4 くじ引きに対して疑惑を持つがどのように実施しているのか。

2005/5/25/文書

県営住宅は、住宅に困窮する低額所得者を対象に整備された住宅です。

入居資格は、①同居親族があり(一部、単身入居可能)、②一定の収入以下で、③住宅に困窮している方が対象となります。入居申込書には、①から③の要件について記述していただいています。

また、申込書の記載内容の確認を行うために、該当する証明書等を提出していただいているところです。家賃の契約書(写)は、収入に対する家賃の負担状況を確認するためであり、学生証(写)は、義務教育終了後の親族の収入状況を確認するためであるなど、入居資格や住宅の困窮要件を確認するために必要不可欠でありご理解願います。

個人情報については、漏洩の防止と職員の守秘義務を徹底させています。

また、入居者を決定する場合、公平性・公開性が求められることからその方法として、入居申込者の立会いの下でくじ引きを行っています。

県としては、御提言の趣旨を真摯に受け止め今後とも県民の皆様が利用しやすい県営住宅となるよう努めていきます。